

## 第4期徳山地区地域審議会最終提言（案）

周南市の各地区の中でも、徳山地区は工業地帯から中心市街地、周辺地域まで広範囲に及ぶため、様々な特色を持ち合わせております。そのため、中心市街地の活性化をはじめ、中山間地域の振興、さらには教育・福祉の増進など地域の課題も多岐に及びます。これらの地域の課題は、昨今の人口減少、少子高齢化などの地域環境の急速な変化の中で非常に複雑なものと化しております。

徳山地区地域審議会では、このような複雑かつ多岐に及ぶ地域の問題について幅広く対応するために、『ものに関する部会』と『ひとに関する部会』の各部会に分かれこれまで議論してきました。『ものに関する部会』は特に地域の活性化の視点に立ち、「観光の振興」「周辺地域の活性化」について、『ひとに関する部会』は地域の連携の視点で「子育て支援と食育」、「福祉・生涯学習」「交流の場の創出」について検討してまいりました。

その結果、以下の重点施策を徳山地区地域審議会の提言としてとりまとめましたので、市におかれましては、今後の市政運営に生かしていただけるよう切に希望します。

### 提言 1 観光の振興

まちなか観光交流拠点として、「海の駅」の設置

#### ～まちなか観光交流拠点「海の駅」～

機能：観光の目玉としての観光複合施設、市の観光案内拠点

場所：晴海埠頭先、又は現在の徳山港付近、もしくは徳山駅ビルの中

導入施設等：海が見えるまちなか温泉（中心市街地徒歩圏内の便利な温泉）

プラネタリウム（周辺に無い魅力的な施設）

特徴ある水族館（周辺に無い魅力的な施設）

萩のシーマートのような市場・施設の整備（魚市場と連携）

#### 特徴

- ・新幹線停車駅と海・港（工業港とフェリー）が近く、全国でも珍しい立地条件
- ・全国有数のコンビナート群が立地
- ・ふぐの延縄漁の発祥地であり、「ふぐ・はも・たこ」を主体としたブランド戦略を実施中
- ・まちなか居住推進をしている中心市街地と近い

## 独自性

- ・ 景観（瀬戸内海に沈む夕日とコンビナート群の夜景）を生かした観光拠点
- ・ 様々な観光の観点・機能を集約し、多様化するニーズに対応

知名度の高い観光資源発掘のための、既存の観光資源の整理・再評価と、新たな観光資源の開拓

### 既存の観光資源の整理・再評価

- (1) 海外客に人気が高いゴルフ場（市内に数多く存在）
- (2) 周辺地域に残る美しい自然風景・田園風景、そこに息づく伝統工芸
- (3) 周南地区に縁の深い登場人物を多角的に捉え、関連付け  
文化活動、観光案内などの市民活動やイベントを推進  
児玉源太郎や飯島様（腰から下へ霊験あらたか）等
- (4) 宿泊地としての各温泉の利用

### 観光資源の新規開拓

- (1) 地元メーカーによるモノづくり体験と工場見学
- (2) エヴァンゲリオン（ ）を生かしたまちづくり（徳山高専ロボット、アニメとの連携）  
徳山出身の漫画家貞本義行氏の代表作
- (3) B級グルメや徳山ブランド食材（周南たこ、周防はも、徳山ふぐ）を生かした名産品、料理の開発

広報活動の充実、各観光資源間、或いは地域間での連携

#### （１）効果的な広報活動

- ・ ICT技術を活用し、魅力的なホームページやブログ等を通じた情報発信
- ・ 徳山駅前での市の観光情報をカラー映像でPRできるよう、電光掲示板を改修
- ・ 観光都市宣言を実施することで、観光に関する民間・個人活動を行政がバックアップし、観光都市周南を全国へPR

#### （２）観光資源同士・他地域との連携

- ・ 観光拠点「海の駅」や「徳山駅」と周辺地域との観光資源同士の連携向上
- ・ 広島県の瀬戸内海の道構想への参加検討
- ・ 岩徳線でのSL車両採用による岩国市との観光資源提携構想

## 提言 2 周辺地域の活性化

### ( 1 ) 人の循環に関する提言

耕作放棄地を市民農園や農作業体験の形で開放し、人を招き入れることで、農地の荒廃を防ぐような施策の策定

景観の保全等により観光資源としての周辺地域の価値を向上させることで、人と自然との好循環を生み出していく仕組みの構築

### ( 2 ) 経済の循環に関する提言

農林水産業を活性化するためには、生産のみならず、加工や販売まで一貫した体制を構築し、相乗効果を生み出す「第6次産業化」の視点で施策の策定

農産物の販路開拓のため、萩市まで続く国道315号沿いに北部道の駅を設け、新たな地域交流拠点の設置

経済循環の有効な手立てとして、異業種参入、退職者の雇用等を見込み、農業法人による既存農地の有効活用のための施策の策定

周辺地域においては、「人・自然・経済が循環する活力溢れる“いのち育む里”の実現」を目指して日々取り組んでおられますが、人口減少や少子高齢化が周辺地域に与える悪影響を効率的に解消するためには、特に「人・経済の循環」という視点に立っての周辺地域の活性化が急務だと考えます。

## 提言 3 子育て支援と食育

### (1) 親への食育教育に関する提言

出産前の早い段階で、親と行政や地域支援団体との接点を設け支援し、「食育教育」を中心とした支援の取り組み

食育や子育てに関わる多くの知識を妊娠中に備えておく事で、子育てに関する不安の解消を図ります。同時に、行政や地域支援団体との関係をあらかじめ築き、子育て中の効果的な支援へとつなげます。

食育に関する知識を付けてもらうため、

- ・ 母親になる前の栄養を重視した料理教室
- ・ 大人の食事を離乳食用にする料理教室

といった工夫をこらした魅力あるプログラムの展開が必要です。

### (2) こどもへの食育教育に関する提言

各地区の食生活推進員と保育園や小学校との連携を密にし、子供達を対象とした学校等での食育推進プログラムの実施体制の構築

保育園や小学校といった子供が小さいときから将来を見据え、食の大切さについて考える機会はとても大切です。しかし、小学校では年度当初時点で既に予定が埋まっている場合が多く、食育活動の積極的な推進が思うように進まない現状があるため、早めの教育が望ましいです。

## 提言 4 福祉・生涯学習

地域または地区の情報を民間企業、NPO法人等へ発信を行う仕組みの構築

地域等で発生している問題をまずは情報発信し、行政だけでなく多様な視点から解決の糸口を見出す事で、より効果的・効率的な取り組みを期待することができます。

そうすることで、「買物難民」をはじめとする社会的に弱い立場にある方へのきめ細かな支援体制、支えあいの仕組みが確保できます。

## 提言 5 交流の場の創出

多様な団体の多様な活動を、色々な共通項で結びつけることが可能となる交流の場の設置

交流施設の建設において、設計段階から地域住民や利用者の意見を取り入れる仕組みの構築

これらの仕組みを取り入れてはじめて、利用者に愛され、多くの人でにぎわう交流施設となり、本来の意味での「交流の場」としての機能が備わるものと考えます。効率的な「交流の場」が出来れば、地域活動も活発になり、社会問題も自力で解決できる「コミュニティ」が形成されると考えます。